

## 男性における女性用コンドームの使用感と女性における 使用意欲との関連に関する研究

宮崎景子、柏木智江、中村富美子、廻智子、野本啓子、磯口ツユ子  
（国立京都病院附属看護助産学校助産師科）

松浦賢長（京都教育大学）

北村邦夫（日本家族計画協会）

### 要約

男性における女性用コンドームの使用感とそのパートナー（女性）における使用意欲との関連を把握するための研究をおこなった。対象者は、特定の一人と交際しているカップル 30 組（20 歳代）である。対象者に女性用コンドームをそれぞれ 6 個配布した。さらに女性用コンドーム 1 個目使用後の初回質問紙と最終質問紙（対象者全員）を配布・回収した。結果：女性用コンドームの使用に成功したカップルは 6 割、使用を中断したカップルは 4 割（「女性用コンドームを手にした時点でやめた」が 8 組、「女性用コンドームを装着できなかった」が 1 組、「ピストン運動ができなかった」が 3 組）であった。対象の男性は使用感を次のように回答していた。「ペニス挿入はスムーズである」は約 6 割、「男性用コンドームより開放的である」は約 6 割、「膈内での射精感が強い」は約 5 割、「男性用コンドームと比較しての使用感が良い」は約 3 割であった。女性用コンドームの装着は、男性によりなされているカップルが約 8 割であった。今後も継続して使用していきたい理由

をみたところ、「自分（女性）に快感があるから」が 2 割に対して、「相手（男性）に快感があるから」と「相手（男性）が望んでいるから」が約 6 割みられ、相手を思いやる傾向、もしくはセックスの相互性がみられる結果となっていた。

### I. はじめに

男女の生活と意識に関する調査の結果は、わが国における避妊方法の用いられ方に関する情報を与えてくれた。避妊をしているものを取り上げてみると、男性用コンドームの使用者がもっとも多く、男性では約 75%、女性でも約 70%が男性用コンドームを使用していると回答していた。それに対して、同じバリア・メソッドの一つである女性用コンドームのユーザーは、男性では 0%、女性では 0.6%ということが明らかになった。今回、女性用コンドームをとりあげ、男性用コンドームと比較するかたちで、男性側におけるメリットに関する調査研究をおこなった。

女性用コンドームは 1989 年デンマーク人の医師 Hessel によって考案された。膈内

に挿入する袋状の女性用避妊具である。1992年2月、スイスで商品名「Femidom」が販売開始された。その後、英国、オーストリア、オランダ、米国など世界15カ国以上で販売されてきた。わが国は、2000年4月大鵬薬品興業から「マイフェミィ」の商品名で一般販売されている。

女性用コンドームの使用に関する研究は、更年期、産後、20歳以上40歳以下の女性を対象になされてきている。RILEYらの研究結果は、性交疼痛を訴えている閉経期と閉経以降の女性が女性用コンドームを使用して、ペニス挿入時の痛みが軽減することを示しており、更年期女性には、女性用コンドームの使用が合理的で十分に受容されたことを示している。

片桐は産後の性生活における女性用コンドームの使用感を調査している（片桐、2001）。『女性用コンドームの使用回数が増え、その使用に慣れるに従い、「痛みがない、または軽減され、安心感が高まった」とする意見が多くなっていた。』と報告されていた。また、男性用コンドームと比較して、女性用コンドームの使用感について「良い」と回答したものは24%、「同じ」が46%、「悪い」が30%であった、という結果を出している。女性用コンドームの使用感について「良い」と「同じ」を合わせると、7割が男性用コンドームと比較して抵抗感がないと感じていたことになる。また、産後の避妊に有用であると回答した夫婦は68%であった。産後の使用に関しては、「使う」と回答した女性が52%、男性が39%であり、「使わない」と回答したものは女性で37%、男性で44%であった。女性の約5割、男性の約4割が「今後も使用したい」と回答し

ており、産後の性生活に有用であると報告されていた。これらから、女性用コンドームの使用感に悪い感触がない、もしくは、使用感に良い感触が得られれば、それが今後の使用意欲につながる可能性があると推測した。

日本で最も多く用いられている避妊方法は、男性用コンドームである。田辺らは男性用コンドームのデメリットとして、「①妊娠率が3~12%で、避妊効果が経口避妊薬、IUDに比べて低い、②男性生殖器に装着するものであるため、男性の協力が必要であり、女性が主体的に使用し難い、③性交の最中に装着するという冷静な判断が必要であり、気分と雰囲気壊してしまう、④男性用コンドームは性交時の感覚が鈍くなると言われている。」を挙げていた（田辺ら、1998）。男性用コンドームは精液の漏出を防ぐため、ペニスに密着することから、ペニスに圧迫感を生じさせる。また、男性用コンドームはラテックス製品のものが多いことから、熱伝導性が低く、性感を損なうと考えられる。一方、女性用コンドームは、女性の内性器に合わせて比較的大きめに作られているため、ペニスを圧迫することがない。また、ラテックス製の男性用コンドームの厚さは0.3~0.8mmに対し、ポリウレタン製の女性用コンドームは0.05mmと薄いことも特徴である。ポリウレタンはラテックスと比較して、熱伝導性が高く、相手の皮膚温を感じやすい（北村、2000）。以上の要因から、男性用コンドームと比較して、女性用コンドームを使用した場合、男性の使用感は悪いものではないだろうと推測される。

北村は、20歳以上40歳以下の女性を対

象とした女性用コンドームの受容性と有用性について調査している。受容性については、極めて受容、受容、やや受容をあわせると89.2%のものが受容的であった。有用性についても、極めて有用、有用、やや有用をあわせると96.3%のものが有用性を認めていた。また、女性用コンドームについて、男性に頼らなくても女性の意思だけで使用できる利点があると述べられている(北村、1997)。

一方、金田らの「大学生の避妊に対する意識と行動」の報告によると、「避妊するか、しないかを最終的に決定したのは誰か」について、男性は「自分で」、女性は、「二人で」決めるという意識を持っていたという。さらに、女性が避妊の意思表示を「少しした」「全然しなかった」ケースの理由は、「言い出せなかった」「相手がいつも避妊するから」であった(金田ら、1997)。いずれの理由も、男性に依存的な傾向をあらわすものであった。

また、山本は大学生を対象に(男性用)コンドームの使用決定者について調べたところ、58%の男性が「自分自身」と回答していたと述べている(山本、1997)。(男性用)コンドームを使用しない女性は、それについて「相手を信用していた」や「相手が使う人じゃないと使わない」という理由を挙げている。避妊に関していえば、女性には相手の態度や行為に依存する傾向があると指摘されている。また、妊娠に至った女性14名中12名は避妊の実施、要求のいずれも行わなかったと述べていた。女性は避妊を男性に「要求」することによってパートナーとの関係が悪化し、相手を失うことを恐れる(山本、1997)。また、避妊を「実施」

することは、パートナーや周囲の人からどう思われるか気になるという心理的負担となる(山本、1997)。避妊行動において男性に依存的な女性にとって、「男性に頼らなくても女性の意思だけで使用できる(北村、1997)」ことは突出したメリットにならない可能性があると考えられた。

以上の先行研究から、男性の使用感が女性の使用意欲に影響を与えるのではないかと考えられたため、男性の使用感を中心に研究する必要があると考えた。男性にとって男性用コンドームにはない女性用コンドーム特有の好感触があれば、女性用コンドームの使用意欲が高まり、また、相手の使用意欲に乗じて、女性の継続意欲も高まる可能性がある。これらについて考察するための研究をおこなったので報告する。

## Ⅱ. 対象と方法

特定の一人と交際しているカップル30組(20歳代)を対象にした。これらの30組のカップルに女性用コンドームを6個ずつ配布した。それらを使用してもらう期間は3ヶ月以内とし、使用後に質問紙調査(無記名)を実施した。質問紙は、女性用コンドーム1個目使用後に回答するもの(以下、初回質問紙)と、女性用コンドームを6個使用終了時もしくは使用を中止した時点(使用に至らなかった場合も含む)に回答するもの(以下、最終質問紙)の2種類によって構成されている。なお、使用に至らなかった場合や、使用を中断した場合の回答も解析に含めることにした。質問紙の主たる内容を以下に示す。

1. 女性用コンドーム1個目使用後の質問紙内容(初回質問紙)

①女性用コンドームの使用状況  
・女性用コンドームの使用経験の有無・使用回数

- ・1個目使用時の使用達成度
- ・誰が装着したか
- ・装着のスピード

②女性用コンドームの印象

- ・潤滑剤の触感・量
- ・コンドームの形
- ・コンドームの大きさ
- ・内リング・外リングの大きさ

③女性用コンドームの使用感

i) 女性用コンドーム装着時

- ・女性用コンドーム装着時の不安感
- ・内リングの挿入のしやすさ
- ・装着時の見た目
- ・装着時の羞恥心

ii) ペニス挿入時

- ・気持ちよさ
- ・挿入のスムーズさ
- ・男性用コンドームと比較しての挿入のしやすさ

iii) ピストン運動時

- ・ペニスの感触
- ・内リングの刺激
- ・ピストン運動による摩擦感
- ・興奮度の高さ
- ・射精感の強さ

④女性用コンドームについて思うこと

- ・女性自らの意思で避妊できるか

- ・性行為感染症に感染する危険を減少させるか

- ・避妊法の選択肢が増えるか
- ・(男性は)自分に装着しないことがよいか
- ・気分が変わってよいか

2. 使用終了時の質問紙内容 (最終質問紙)

- ・使用に慣れてきたのは何個目か
- ・正しく使用できたのは何個目か
- ・女性用コンドームの使用に対する抵抗感
- ・他人に勧めたいか
- ・今後の継続使用意欲とその理由
- ・男性用コンドームと比較しての使用感

以上の質問紙調査の結果を集計、分析した。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 女性用コンドームの使用達成度

最終質問紙から、30組中18組がうまく使用できたことがわかった。全体の60%に当たる割合であった(表1)。そのうち、初回からうまく使用できたカップルは、14組であった。その他、2個目に1組、3個目に2組、4個目に1組のカップルがうまく使用できたと回答していた(表2:18組を母数とした)。うまく使用できなかった12組の理由の内訳は表3(12組を母数とした)に示した。男性が女性に装着したと回答したカップルは18組中15組(83.3%)であった。

[表1 使用達成度]

|             |            |
|-------------|------------|
| うまく使用できた    | 18組(60.0%) |
| うまく使用できなかった | 12組(40.0%) |

[表 2 何個目の使用でうまく使用できたか]

|     |            |
|-----|------------|
| 初回  | 14組(77.8%) |
| 2個目 | 1組(5.5%)   |
| 3個目 | 2組(11.1%)  |
| 4個目 | 1組(5.5%)   |

[表 3 うまく使用できなかった理由]

|                           |           |
|---------------------------|-----------|
| 手にした時点でやめた                | 8組(66.7%) |
| 装着はできたが、<br>ピストン運動ができなかった | 3組(25.0%) |
| 装着できなかった                  | 1組(8.3%)  |

2. 男性における使用感：男性用コンドームと比較して

女性用コンドームをうまく使用できた18カプルの男性に、女性用コンドームと男性用コンドームの使用感を比較してもらっ

た。結果は、「大変良い」6%、「良い」33%、「どちらでもない」が39%、「悪い」が17%、「大変悪い」が6%であった。80%近くの男性が、男性用コンドームと同等以上の使用感を持っていた(表4)。

[表 4 男性における女性用コンドームの使用感の評価—男性用コンドームと比較して]

| 大変良い     | 良い        | どちらでもない   | 悪い        | 大変悪い     |
|----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 肯定的      |           |           | 否定的       |          |
| 5.6% (1) | 33.3% (6) | 38.9% (7) | 16.7% (3) | 5.6% (1) |

3. 男性における女性用コンドームの使用感の特徴

女性用コンドームをうまく使用できた男性18名に、女性用コンドームの使用感について回答を得た結果を表5、6に示した。女性用コンドーム装着時、ペニス挿入時、ピストン運動時、女性用コンドーム抜去時の4つの時点における使用感について質問し

た。その結果、ペニス挿入時、ピストン運動時において特徴が見られた。

①ペニス挿入時

ペニスを膣内に挿入したときの使用感の特徴は、「挿入がスムーズ」と「ペニスへの圧迫感がなく開放的」の2点であった。60%の男性が肯定的にとらえていた(表5)。

[表 5 男性の使用感—ペニス挿入時(複数回答)]

|                |     |       |
|----------------|-----|-------|
| 挿入がスムーズ        | 12人 | 66.7% |
| ペニスへの圧迫感がなく開放的 | 11人 | 61.1% |
| 挿入場所を発見しやすい    | 9人  | 50.0% |
| 挿入時気持ちが良い      | 6人  | 33.3% |

②ピストン運動時 感が強い」ことであった。半数の男性が肯定  
 ピストン運動時の使用感の特徴は、「射精 的にとらえていた（表6）。

[表6 男性の使用感ーピストン運動時（複数回答）]

|           |     |       |
|-----------|-----|-------|
| 射精感が強い    | 10人 | 54.6% |
| 摩擦感が良い    | 6人  | 33.3% |
| ペニスの感触が良い | 5人  | 27.8% |
| 興奮度が強い    | 3人  | 16.7% |

4. 女性に継続意欲が見られたカップルの傾向 パートナー（男性）の使用感との関連をみてみた。それを、表8、表9に示す。5組のカップルそれぞれを便宜上、A、B、C、D、E

女性用コンドームをうまく使用できた女性のうち、27.8%に当たる5名が今後も継続して使用したいと回答していた（表7）。  
 で示した。

この5人の女性に着目してみる。女性用コンドームを継続して使用したい理由と、

[表7 女性における使用達成度と女性用コンドーム使用の継続意欲]

|             |             |     |
|-------------|-------------|-----|
| うまく使用できた    | 継続して使用したい   | 5人  |
|             | 継続して使用したくない | 13人 |
| うまく使用できなかった |             | 12人 |

[表8 女性用コンドームを継続して使用したい理由・パートナーの使用感との関連]

|                    | A    | B       | C  | D     | E               |
|--------------------|------|---------|----|-------|-----------------|
| 女性の使用感             | 大変良い | どちらでもない | 良い | 良い    | どちらでもない         |
| 男性の使用感             | 大変良い | 良い      | 良い | 良い    | 良い              |
| 男性の継続使用意欲          | あり   | 無し      | あり | あり    | 無し              |
| 相手に快感があったから        | はい   | はい      | はい |       |                 |
| 相手が避妊法として気に入っているから | はい   |         |    |       |                 |
| 自分に快感があったから        | はい   |         |    |       |                 |
| その他                |      |         |    | 装着が簡単 | 自分に装着することで安心感ある |

[表9 カップルA～Eの詳細]

・カップルA

男女ともに肯定的な使用感をもっており、男女ともに継続意欲がみられた。継続して使用したい理由として、この女性は、自分の快感と相手の快感の両方を挙げていた。

・カップルB

女性自身の使用感は肯定的なものではなかったが、継続して使用したいと回答していた。理由として、相手の男性に快感があり、避妊法として気に入っていることを挙げていた。

・カップルC

男女ともに使用感がよく、男性にも継続意欲があった。継続して使用したい理由と

して、この女性は、相手の快感を挙げており、自分の快感には触れていなかった。

・カップルD

男女ともに使用感が肯定的であり、男性にも継続意欲がみられた。継続して使用したい理由として、この女性は、装着が簡単だからと回答していた。

・カップルE

男性には、肯定的な使用感があるが、継続意欲はなかった。女性には、肯定的な使用感はないが、継続意欲があった。継続して使用したい理由として、この女性は、自分に装着することによって安心感があると回答していた。

#### IV. 考察

従来の女性用コンドームに関する研究は、「産後の性生活における有用性（片桐ら）」や、「女性を対象とした受容性と有用性についての調査（北村）」にみられるように、主として女性側のメリットに注目してきた。また、北村は、女性用コンドームには、男性に頼らなくても女性の意思だけで使用できる利点があると述べていた。その一方で「大学生の避妊に対する意識と行動（金田ら）」や「女性の避妊行動に関する研究（山本ら）」の研究では“女性は避妊行動において男性に依存的である”と報告されていた。私たちは、これらの研究の視点から離れ、「女性側のメリット」ではなく、避妊行動において依存される立場にある「男性側のメリット」に着目した。そして、セックスの相互性（相手の快を自分の快としてとらえる、など）ゆえ、男性における女性用コ

ンドームの使用感が肯定的であれば、女性用コンドームに対する女性の使用意欲が高まると考えた。

女性用コンドームには、男性の性器に装着しないことによるメリットがある。今回の結果から明らかになった女性用コンドームの利点は、ピストン運動時「射精感が強い」こと、ペニスを膈内に挿入した時「ペニスへの圧迫感がなく開放的である」こと、「挿入がスムーズである」ことであった。いずれも性交に伴う好使用感であった。これらの結果より、女性用コンドームには、北村が述べる男性用コンドームの欠点、すなわち「性感が弱まる（北村、2000）」を補う利点があると考えられた。また「ペニスへの圧迫感がなく開放的である」ことは、WHO/GPA が述べている「男性用コンドームよりきつくない」という女性用コンドームの長所に相当するといえた。

女性用コンドームをうまく使用できた女性のうち、女性に継続意欲が見られた5組のカップルをさらに詳しく検討した結果、相手の男性すべてが好使用感を持っていたことがわかった。女性においても、女性用コンドームの使用感を否定的にとらえたものはいなかった。女性において継続したい理由で最も多かったのは、「相手の男性に快感があったから」というものであった。女性は、「ペニス挿入時」「ピストン運動時」など、性交に伴う肯定的な使用感を持つものの割合は高くはなかった一方、いずれの相手の男性も、男性用コンドームにはない女性用コンドーム特有の好使用感を持っていた。これらの結果より、女性の継続意欲に最も影響を与える因子は、男性（相手）の好使用感であることが示唆され、それは、相手を思いやる心理的傾向、あるいは、セックスの相互性（相手の快を自分の快としてとらえる、など）に関連しているものと考えられた。

## V. まとめ

1. 女性用コンドームに関する男性における肯定的な使用感は、次の3点にまとめられた。

- ・挿入がスムーズである
- ・ペニスへの圧迫感がなく開放的である
- ・射精感が強い

2. 5人の女性（全対象者30名、内うまく使用できたもの18名中）が女性用コンドームを継続して使用したいと回答していた。相手の男性の使用感は、いずれも肯定的であった。相手の男性の好使用感が、継続して使用したい理由として挙げられていた。

3. 男性における女性用コンドームの使用感とそのパートナーにおける継続意欲との関連を示すには、今後例数を増やして研究をすすめる必要があると思われた。

## VI. 引用文献

- ・Riley AJ, Riley EJ: 閉経期と閉経以降の女性の性交疼痛軽減に対するフェミドーム（女性用コンドーム）の受容性と有効性の評価.
- ・片桐清一: 産後の性生活における女性用コンドームの使用感, 産婦人科の世界 53(11)81-87, 2001-9.
- ・田辺清男: わが国における避妊の実態, 産と婦 65(5)565-574, 1998-5.
- ・北村邦夫: 避妊法の実際 女性バリア法 ペッサリー 女性用コンドーム, 産と婦 67増刊号219-227, 2000-3.
- ・北村邦夫: 女性用コンドームの受容性と有用性, 産婦の世界 49(7)567-576, 1997-7.
- ・金田弓子: 大学生の避妊に対する意識と行動, 母性衛生 38(1)18-24, 1997-3.
- ・山本智子: 女性の避妊行動に関する研究 行動科学的モデルを用いて, 母性衛生 38(1)118-125, 1997-3.
- ・玉城英彦: エイズ-その予防活動- [VII] -日本人国際職員の体験より-, 保健の科学 36(11)745-751, 1994.
- ・北村邦夫: 避妊法の問題点と対策 バリア法の問題点と対策, 臨床婦人産科学 54(7)920-925, 2000-7.

## VII. 参考文献

- ・北村邦夫: 女性用コンドームの受容性と有用性, 産婦の世界 49(7)567-576, 1997



- 7.
- ・片桐清一：産後の性生活における女性用コンドームの使用感，母性衛生 42(3)220, 2001-9.
  - ・北村邦夫：避妊法の実際 女性バリア法 ペッサリー 女性用コンドーム，産と婦 67 増刊号 219-227, 2000-3.
  - ・山本智子：女性の避妊行動に関する研究 行動科学的モデルを用いて，母性衛生 38(1)118-125, 1997-3.
  - ・伊藤直樹：避妊法の実際 コンドーム，産と婦 67 増刊号 228-230, 2000-3.
  - ・黒島淳子：若者の性意識と性行動—ピル解禁をめぐって—，産と婦 52 83-89, 2000
- 2
- ・熊田栄子：女性用コンドームの臨床適応に関する意識調査 第1報，母性衛生 41(3)143, 2000-9.
  - ・北村邦夫：避妊法の問題点と対策 バリア法の問題点と対策，臨床婦人産科学 54(7)920-925, 2000-7.
  - ・家坂清子：新しい避妊法 女性用コンドーム，母性衛生 39(3)75, 1998-3.
  - ・田辺清男：わが国における避妊の実態，産と婦 65 (5) 565-574, 1998-5.
  - ・伊藤直樹：各種避妊法の特徴 コンドーム，産と婦 65 (5) 565-574, 1998-5.
  - ・綾部琢哉：避妊法の選択，産と婦 65 (5) 620-624, 1998-5.
  - ・真井康博：女性用コンドームの受容性と有用性，母性衛生 38(3)332, 1997-9.
  - ・北村邦夫：わが国のリプロダクティブ・ライツを検証する 女性自らの手で確実な避妊を，母性衛生 37(3)122, 1997-9.
  - ・北村邦夫：避妊法の実際，日本産婦人科学会誌 48(9)N165-N168, 1996-9.
  - ・北村邦夫：避妊法の実際，産婦の世界 48(12) 1079-1086, 1996-12.
  - ・北村邦夫：避妊法の実際，母性衛生 37(4)3-15, 1996-12.
  - ・山本智子：女性の避妊行動に関する研究 行動科学的モデルを用いて，母性衛生 38(1)118-125, 1997-3.
  - ・山中京子：若年者とH I V感染—性行動の現状と予防介入の課題—，周産期医学 32 (2) 159-164, 2002-2.
  - ・三橋直樹：避妊の基礎知識，産科と婦人科 67 増刊号 2-5, 2000-3.
  - ・近藤芳仁：Ⅶ避妊法の選択 2. 成熟期女性の避妊，産科と婦人科 67 増刊号 259-263, 2000-3.
  - ・牧野恒久：Ⅶ避妊法の選択 3. 産後の避妊，産科と婦人科 67 増刊号 264-267, 2000-3.

## 避妊や STD 予防についても教える

### 「包括的」性教育の有効性についての基本文献

(財)日本性教育協会研究員 鍛冶 良実

本文では、節制や禁欲とともに避妊や STD 予防についても教える、「包括的」性教育が、若者の性交開始時期を遅らせ、セックス・パートナーの数を減らし、望まない妊娠や STD の感染率を減らすことに寄与し、「包括的」性教育が若者の性行動を活発化させる原因とはならないことを論じるための、基本的文献を紹介する。

なお、各論文、報告書などのタイトルの日本語訳は、筆者によるものである。ここで挙げた論文、報告書は、すべてインターネットの各団体のホームページからダウンロードして全文を入手できる。

1. 「包括的」性教育の定着しているヨーロッパ諸国では、若者の初交年齢も高く、若年妊娠、STD 感染率も低いことを紹介する文献。

アドボケイト・フォー・ユース「若者の性行動に対するヨーロッパ的アプローチ—研究の要約と行動勧告」

Linda Berne, “European Approach to Adolescent Sexual Behavior and Responsibility Executive Summary and Call to Action” by BERNE, L and HUBERMAN, B, Advocates for Youth, 1999.

アメリカの専門家集団が、オランダ、ドイツ、フランスの 3 カ国を訪問し、アメリカの性教育との比較調査をした研究報告書。アメリカに比べて、それらのヨーロッパ諸国では、平均で 1, 2 年初交開始年齢が高く、また、若者の性に関する健康状態も優れているので(例えば、オランダの 10 代の出産率はアメリカの 8 分の 1、ドイツの 10 代の淋病感染率はアメリカの 25 分の 1 など) その違いはどこから生まれているのかを、「リプロ・ヘルスの保健サービスの利用しやすさ」「性教育」「マスメディアや、社会的キャンペーン」「家族、地域、宗教」などの点から解析している。

2. 性教育の効果測定をした諸研究のレビュー結果から、「包括的」性教育により、性交開始時期を遅らせ、セックスパートナー数を減らし、望まない妊娠や性感染症の率を減らすことができることが証明されていることを示す文献。

UNAIDS ベスト・プラクティス・コレクション

「HIV 教育とセクシュアル・ヘルス教育が、若者の性行動に与える影響：レビュー・アップデート」1997 年

"Impact of HIV and Sexual Health Education on the Sexual Behavior of Young People: a review update" UNAIDS Best Practice Collection KEY MATERIAL, 1997.  
<http://www.unaids.org/publications/documents/children/schools/grunskme.pdf>

フランス、メキシコ、スイス、タイ、イギリス、アメリカ合衆国、北欧諸国から集められた若年者に対する HIV/AIDS とセクシュアル・ヘルス教育に関する研究を総合的に検討し、一般に「包括的」性教育は性交開始時期を遅らせ、セックス・パートナーの数を減らし、望まない妊娠や性感染症の割合を減らす傾向があり、性教育が若者の性行動を活発化させる要因とはならないと結論付けている。

ダグラス・カービー「若者の無防備セックス、妊娠、出産の低減に効果的な諸アプローチ」

Douglas Kirby, *Effective Approaches to Reducing Adolescent Unprotected Sex, Pregnancy, and Childbearing*, *Journal of Sex Research*, 2001; Vol.39.51-57

1980年以降に発表された米国とカナダにおける、思春期(12-18才)を対象とした性教育の効果測定の研究73件を総合的に検討し、その結果、「禁欲」と「コンドームや避妊」の両方を教えている「包括的」な性教育・STD教育の効果が肯定されており、「避妊法などを教える教育カリキュラムが性行動を活発化させることはない」と結論付けている。

3. 「結婚まで禁欲のみ」教育が定着してきているといわれているアメリカの性教育の現状から、実際には「包括的」性教育が効力を発していることと、「結婚まで禁欲のみ」教育の弊害を知ることができる文献

カイザー・ファミリー財団「セックス・エデュケーション・イン・アメリカ：生徒、親、教師、校長に聞く性教育の実態」  
"Sex Education in America: A Series of National Surveys of Students, Parents, Teachers, and Principals" Kaiser Family Foundation, 2000.

<http://www.kff.org/content/2000/3048/SEXED.pdf>

カイザー・ファミリー財団によって、1999年2月から5月に行なわれた調査の報告書。全米の公立中学・高校全体を代表するように抽出された、校長(313名)教師(1001名)親子(1501組)からの聞き取り調査によって、現在のアメリカ性教育の実像を浮き彫りにしている。中高生の親の大半は、「禁欲」とともに、「セイファー・セックス(避妊やSTD予防)」についても80%以上の親が教えてもらいたいと思っていることが調査結果には現れている。またこの調査では、「あなたの学校の性教育の主なメッセージは？」という質問に、34%の校長が「禁欲のみ」59%の校長が「包括的性教育を進めている」としている。「禁欲」を推進しているながらも、避妊について(82%)や、コンドームの使い方(68%)も、大半のク

ラスで教えられている。また、性的な状況への対処準備度や、性の健康に関するかなりふみこんだ知識の習得において、性教育を受けた生徒と受けたことのない生徒では、大きな差が現れており、学校性教育は、アメリカの若者の、性の健康に関する現実的で具体的な、大きな情報源となっていることが判る。

**性的に健康なアメリカを目指して一連邦政府の「結婚まで禁欲のみ教育プログラム」によって置かれた障壁―アドボケイツ・フォー・ユース、全米性教育情報協議会（SIECUS）共著、2001年発行、全36ページ**

“*Toward a Sexually Healthy America: Roadblocks Imposed by the Federal Government’s Abstinence-Only-Until-Marriage Education Program*” By Advocates for Youth and SIECUS (Sexuality Information and Education Council of the United States), 2001.

特殊な宗教的、政治的背景から「結婚まで禁欲のみ」をうたい、避妊やSTD予防の実践的知識を結婚前の若者に教えることを避ける「結婚まで禁欲のみ教育」プログラムの略史と、1996年に連邦政府が導入した「結婚まで禁欲のみ性教育」プログラムに対する助成金の条項の紹介、導入されてからの各州での動向を紹介し、助成金を得るプログラムにおいて、禁欲以外の、避妊・STD予防法について教え

ることが禁止されることによって、いったん「禁欲」が守れなかった場合に若者が危険な性行動を行なう割合が非常に高くなるなどの弊害を論じ、また、いくつかの世論調査の結果から、「包括的」性教育に対する国民の支持。包括的セクシュアリティ教育を支持している保健関係の専門団体のそれぞれの、包括的セクシュアリティ教育支持の立場表明の紹介や、「包括的」性教育を支持する全国的組織団体のリストなどがまとめられている。

**「性的に健康なアメリカを目指して一若者を“おびえた純潔”に閉じ込めようとする、結婚まで禁欲のみ教育プログラム」全米性教育情報協議会（SIECUS）著、2001年発行、全70ページ**

“*Toward a Sexually Healthy America: Abstinence-Only-Until-Marriage Program that Try to Keep Our Youth “Scared Chaste”* By SIECUS (Sexuality Information and Education Council of the United States), 2001.

「結婚まで禁欲のみ教育プログラム」の特質と潜在的害についての解説書。「結婚まで禁欲のみ」教育と、「包括的性教育」の教育内容や主張の対比が行なわれている。

| 「結婚まで禁欲のみ」教育の特徴   | 「包括的」性教育の特徴   |
|---|---|
| 結婚外の性行動は、社会的、心理的、身体的悪影響を招くと教える                            | セクシュアリティは、自然で、普通、健康な人生の一部であると教える  |
| 結婚までは性交をしないことが、唯一の正しい行動だと教える                              | 性交をしないことが、妊娠、性感染症の予防には最も効果的だと教える  |
| すべての生徒にあてはまる、一つの価値観があると教える                                | 家庭やコミュニティの価値観と共に、生徒が自分の価値観を模索して定義する機会を与える。                                  |
| 結婚前の禁欲と、婚前性行動のむくいとといった限定されたトピックを取り上げる                     | 発達、関係、対人関係スキル、性的健康、社会、文化などのセクシュアリティに関連する広範なトピックを取り上げる                       |
| 中絶、マスターベーション、性的指向については、全く取り上げないか、伝える情報が偏っている              | 中絶、マスターベーション、性的指向についても取り上げて、正確な事実を伝える                                       |
| 若者の性行動をコントロールするのに「恐れ」と「恥」にたよる                             | セクシュアリティと性行動についての明るいメッセージを伝えながら禁欲の利点も説く                                     |
| コンドームについて「失敗率」のみが教えられる                                    | コンドームを正しく使用することによって、望まない妊娠と性感染症(HIVを含む)のリスクを激減できることを教える                     |
| 避妊法について「失敗率」のみが教えられる                                      | 避妊によって、意図しない妊娠のリスクが大幅に低減できることを教える   |
| 性感染症(HIVを含む)について、誇張された正確でない情報を提供し、性感染症は、婚前性行動の必然的なむくいだとする | 性感染症(HIVを含む)について医学的に正確な情報を提供し、STDが予防できることを教える                               |
| 特定の宗教的価値観を推進していることが多い                                     | 宗教的価値観は個人の性行動の意思決定に重要な役割を果たすことを教える。生徒1人1人に、自分自身と、家庭の宗教的価値観について模索する機会を与える    |
| 意図しない妊娠をしてしまったティーンにとって、倫理的に正しい決断は、赤ん坊を養子に出すことしかないと教える     | 意図しない妊娠に直面した女性には、妊娠を継続して自分で赤ん坊を育てるか、養子に出すか、妊娠を継続せず人工妊娠中絶をする、という選択肢があることを教える |

WHO と世界性科学学会共同文書「セクシュアル・ヘルスの促進—行動勧告—」

World Health Organization, World Association for Sexology, Promotion of Sexual Health, Recommendations for Action, 2000.

2001年にWHOが公布したこの勧告は、性の健康に関するWHOの勧告書としては、25年ぶりのものであり、今後長く準拠すべき文書として用いられるものである。その中では、学校が「包括的な」性教育を提供することの大切さが協調され

ており、巻末には、効果評価の研究の知見をもとに下記のような、「包括的性教育の特徴」が、まとめられており、各国

でのこれからの性教育の指針として参照されるものである。

## WHO の示す「包括的」性教育の特徴

### 「包括的」性教育の目標：

- ・単なる知識の習得よりも、性への肯定的な態度を醸成させる批判力のある考え方を育てる。
- ・自分自身が生涯を通じ性的な存在であることを、心配や恐れや罪の意識なしに認識、確認、受容できるようにする。
- ・人権に基づく価値観により、礼儀正しく公平な人間関係を促進するような性別役割の発達を育てる。
- ・単なる2人の関係を超えた人間関係の絆や情緒的な面の価値を高める。
- ・自己尊重と保健のための要因として、身体に関する自分の知識を高める。
- ・自分自身にも他人にも、楽しく意識的であり、かつ自由で責任ある性行動を育てる。
- ・カップルや家族の間のコミュニケーションを深める。性別や年齢にかかわらず平等な関係を推進する。
- ・家族計画、育児、避妊法の使用について、責任ある行動を共にすることを促す。
- ・性感染症予防に関し、責任ある決断を促す。

### 質の高い性教育プログラムは：

- ・知識を増す。
- ・価値観を明確にする。
- ・親子のコミュニケーションを増す。
- ・思春期の早期に与えれば性交の開始を遅らせる。
- ・若者たちに性交の頻度を増させない。
- ・避妊やコンドームの使用率を増す。

### 効果的なプログラムに共通している特徴は：

- ・特定の行動に焦点をあてる。
- ・行動変容の理論的モデルに基づいている。
- ・無防備な性交の危険や危険を減らす方法に関する情報を提供する。
- ・生徒自身に、意味があり現実的だと思えるような技術の練習や状況についての話し合いの機会を提供している。
- ・十代の性行動や決断に及ぼす、メディア、仲間、並びに文化の影響を伝えている。
- ・学生たちの間に、禁欲や自分を守るという決断を支持することの信念と価値観を育て、強めている。
- ・学生たちにコミュニケーションのスキルやネゴシエーションのスキルを練習させている。

# 主題と主な指導内容（案） 武川行男

小学校

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
| <b>男女の体の違い</b><br>・男女の体の共通な部分<br>・男女の体の異なる部分<br>・男女の性器の形の違い | <b>体への関心</b><br>・体の主な部分の機能<br>・それぞれの部分の重要な機能<br>・体の機能と巧みさ<br>・体の病気と健康 | <b>親と自分との関わり</b><br>・似ている親子<br>・親と自分とのつながり<br>・命のつながり<br>・親の愛情 | <b>家族と自分徒の関わり</b><br>・家族と家庭<br>・家族の役割<br>・家族の助け合い<br>・さまざまな家庭と家族 |
|---|---|--|--|

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| <b>体の清潔</b><br>・体の主な部分の機能<br>・男女の性器の大切な機能<br>・性器の清潔<br>・排泄、下着、入浴と清潔 | <b>性器への関心</b><br>・排尿への関心とマナー<br>・下着と性器の保護<br>・内性器の存在と機能のおおよそ | <b>性役割意識の芽生え</b><br>・家庭の仕事と役割分担<br>・学級、学校の仕事と役割分<br>・固定的な性役割意識 | <b>性被害の防止</b><br>・被害の事例<br>・被害の多い場所、時間<br>・加害者<br>・被害の防止 |
|---|--|--|--|

|  |  |   |
|--|--|---|
| <b>性器の清潔</b><br>・汚れやすい性器<br>・排尿、排便と性器の清潔<br>・清潔な入浴方法 | <b>自己の性への認識</b><br>・遊び、持ち物、服装などの男女差<br>・男らしさ、女らしさ<br>・個性、自分らしさの大切さ | <b>異性へのいたずら</b><br>・異性への関心の芽生え<br>・異性の反応<br>・異性との強調 |
|--|--|---|

|  |  |  |
|--|--|--|
| <b>体格、体力の男女差</b><br>・数字で見る体格、体力の男女差<br>・体格などに見られる男女の成長交差 | <b>生命への関心の芽生え</b><br>・虫、魚、小動物の生命への関心<br>・植物の成長への関心<br>・人の誕生、成長、(死)への関心 | <b>性的いたずら</b><br>・異性への関心の高まり<br>・関心の持ち方、表し方<br>・加害者の心理、被害者の心理<br>・いたずら心のコントロール |
|--|--|--|

|   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| <b>二次性徴とその意義</b><br>・男女の二次性徴の種類と意義<br>・男女の二次性徴の共通点と相違点<br>・二次性徴の個人差<br>・二次性徴をめぐるエチケット | <b>異性への関心の芽生え</b><br>・異性の特徴と能力<br>・異性への接近欲求<br>・男女の心の理解と強調 | <b>異性への反発・対立</b><br>・学級内での男女の対立事情<br>・男女の心理の理解<br>・よりよい学級づくり | <b>家庭での役割</b><br>・家庭の機能<br>・家族の役割<br>・家庭における自分の役割<br>・よりよい家庭づくり |
|---|--|--|---|

|  |  |
|--|--|
| <b>月経のしくみ</b><br>・初経のしくみと意義<br>・月経のしくみと手当て<br>・月経の個人差<br>・月経時の生活とエチケット | <b>性に関する不安や悩み</b><br>・不安や悩みの種類<br>・不安や悩みの個人差<br>・不安や悩みの克服<br>・不安や悩みの相談 |
|--|--|

|  |  |
|--|--|
| <b>射精のしくみ</b><br>・精通のしくみと意義<br>・射精の個人差<br>・射精の日常生活 | <b>生命尊重の心</b><br>・受精、胎児の成長、誕生<br>・生命創造の巧みさ<br>・育児に見る親の愛情<br>・生命の尊さ |
|--|--|

|  |   |
|--|---|
| <b>生殖のしくみ</b><br>・男女の体の生殖のしくみ<br>・精子、卵子、排卵等<br>・受精、妊娠、着床等<br>・胎盤、へその緒の働き<br>・出産、授乳、生命の連続 | <b>異性愛への芽生え</b><br>・前思春期の心理<br>・異性から学ぶこと<br>・異性愛への芽生え |
|--|---|

|   |
|---|
| <b>性感染症とエイズ</b><br>・性感染症とエイズ<br>・エイズの感染と予防法 |
|---|

# 主題と主な指導内容（案） 武川行男

## 中学校

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| <b>二次性徴</b><br>・二次性徴発現のしくみ<br>・性ホルモンの働き<br>・発現の個人差<br>・不安や悩みの解消<br>・二次性徴に関わるエチケットやマナー | <b>思春期の心理</b><br>・思春期の心の特徴<br>・自信と不安、理想と現実、反抗、自己顕示欲、劣等感等<br>・人間関係の悩み<br>・性的欲求の高まりの悩み | <b>異性との人間関係</b><br>・異性への憧れ<br>・異性との交際<br>・交際のエチケットやマナー                           | <b>性情報と性意識</b><br>・性情報の影響<br>・性情報と現実（真実）<br>・情報の選択と判断力               |
| <b>月経</b><br>・月経のしくみ<br>・月経の個人差<br>・不安や悩みの解消  | <b>異性への関心</b><br>・特定の異性への関心<br>・特定の異性との関わり   | <b>人間関係の不安や悩み</b><br>・友人、教師、家族等との人間関係<br>・コミュニケーション・スキル                          | <b>性の問題行動</b><br>・露骨な性情報への接触<br>・不健全な異性関係<br>・不適切な性行動                |
| <b>射精</b><br>・射精のしくみ<br>・射精の個人差<br>・不安や悩みの解消  | <b>思春期の課題</b><br>・肯定的な自己認識<br>・個人の伸長と自信<br>・人生の将来設計                                  | <b>異性の尊重</b><br>・異性の特徴と魅力<br>・異性から学ぶこと<br>・異性の尊重                                 | <b>性被害・性加害の防止</b><br>・性被害の事例<br>・性加害の事例<br>・性のトラブル発生の背景<br>・性のトラブル防止 |
| <b>生殖機能の発達</b><br>・内・外生殖器の発育<br>・生殖のしくみ<br>・生命の発生と尊重                                  | <b>異性への接近欲</b><br>・思春期の心の発達<br>・性的欲求の高まり<br>・異性との好ましい関係                              | <b>異性との交際</b><br>・交際のルール、マナー<br>・相互に高めあう関係                                       |  |
| <b>性成熟の個人差</b><br>・性成熟の個人差<br>・不安や悩みの解消<br>・健康的な日常生活の工夫                               | <b>性行動のコントロール</b><br>・男子の性心理、性生理、性行動の特徴<br>・女子の性心理、性生理、性行動の特徴<br>・性衝動のコントロール         | <b>性に関わる偏見・差別</b><br>・学級、学校に見られる偏見・差別<br>・社会に見られる偏見・差別<br>・偏見・差別の背景<br>・偏見・差別の解消 |  |
| <b>受精・妊娠・出産</b><br>・受精のしくみ<br>・妊娠のしくみ<br>・胎児の成長<br>・出産                                | <b>性の逸脱行動</b><br>・不適切な性行動<br>・その背景にあるもの<br>・逸脱行動が招く結果<br>・健康的な中学生生活                  |  |  |
| <b>喫煙・飲酒・薬物と性行動</b><br>・たばこの害<br>・アルコールの害<br>・薬物の害<br>・喫煙、飲酒、薬物と軽率な性行動                | <b>適切な意志決定と行動選択</b><br>・十分な知識と情報の入手<br>・経験者の助言と仲間との討論<br>・慎重な意志決定と行動選択               | <b>男女平等と男女共同参画</b><br>・性による偏見・差別の現状<br>・男女共同参画社会が目指すもの<br>・自らに潜む偏見の克服            |  |
| <b>性感染症とエイズ</b><br>・性感染症の種類と症状<br>・性感染症の感染経路<br>・HIV感染のしくみ<br>・エイズの治療と予防              | <b>性感染症とエイズの予防</b><br>・性感染症のひろがりとその背景<br>・HIV感染者の増大とその背景<br>・感染者への偏見、差別              |  |  |



# 性育ガイドライン

村瀬 幸浩

|              | 体の発達・健康に関すること  | 心の発達に関すること  | 家族や人間関係に関すること  | 社会的な面に関すること   |
|--------------|--|---|--|---|
| 幼稚園<br>保育所   | <p>体のはたらき、感覚<br/>体のすばらしさ、やさしく扱う</p>  | <p>出生、出産への興味<br/>どこからきたの？<br/>性器（排尿器）のちがいは興味<br/>自分とひと（他人）のちがいは</p>                     | <p>自己肯定的な育ち<br/>（タッチ、ハグ、コミュニケーション）<br/>安心でできる関係—愛情</p>                             | <p>地域と子ども<br/>子どもを守り育てる地域のしくみ<br/>性被害の防止（被害をうけたらどうするか）</p>  |
| 小学校<br>1 ～ 3 | <p>体の主な部分のはたらきと名称<br/>体のたくみさ、重要性<br/>男女の体の共通したところ<br/>男女の体のちがったところ<br/>（排尿・性器）</p>   | <p>自分のからだを守る、ひとを大切にすること</p>   | <p>いのちのつながり、親と自分のつながり<br/>家族の役割、協力<br/>出生、出産を学ぶ</p>                                | <p>地域のように、環境<br/>性被害の防止と対応</p>  |
| 小学校<br>4 ～ 6 | <p>清潔・マナー・下着・性器の保護<br/>（柔らかく、傷つきやすい、汚れやすい）<br/>男女の体の機能のちがいは<br/>生殖（性交・妊娠・出産）の可能性<br/>月経、精通（射精）<br/>（性差・個人差）</p>              | <p>異性への関心、いたずら、対立<br/>加害、被害の心理、コントロール<br/>性別意識の自覚<br/>性に関する不安（発達に関する）<br/>性的欲求、あこがれ</p> | <p>さまざまな家庭や家族の存在<br/>（共働き、単親、その他）<br/>男女の感じ方考え方の共通性、ちがいは<br/>異性や性への関心と自立希求、思春期</p> | <p>地域のどこに何があるか<br/>子どもはどうか守られているか</p>   |
| 中学校          | <p>思春期からただの変化（個人差）<br/>生殖能力の発現<br/>性の自己認識、イメージ<br/>性的欲求の多面性、個性<br/>マスターベーション<br/>性に関する病（STD、エイズ）<br/>性的指向（性的マイノリティ、多様な性）</p> | <p>こころの変化、悩み<br/>性行動のコントロールの必要性と可能性<br/>相手の人生、健康への思いやり、責任</p>                           | <p>性的主体性、自己主張<br/>相手の不安、悩みをどこまで受け入れられるか</p>  | <p>性とメディア（情報選択）<br/>性と法律（レイプ、セクシュアルハラスメント）<br/>エイズと社会</p>   |
| 高校           | <p>避妊、中絶、性的欲求の自制<br/>リプロダクティブ・ヘルス、不妊の可能性<br/>STD、エイズの予防</p>  | <p>対等性、相互性など関係性について<br/>性的欲求とは何か</p>  | <p>問題解決のための交渉する力、方法（ネゴシエーションスキル）<br/>（対相手、対社会）<br/>親になるとは</p>                      | <p>メディアリテラシー<br/>性と芸術、文学<br/>買売春について（性産業、商品化・・・）<br/>男女共同参画社会とは<br/>リプロダクティブ・ヘルス・サービスとは<br/>どうなっているか（どこに何があるか）<br/>社会におけるセクシュアルハラスメント</p> |